

全佛通信

十月号

発行所 全日本仏教会
東京都中央区築地
三ノ一(本願寺内)
電話 〇二九六九
〇三六一三
〇三三〇〇
振替 東京三三〇〇
発行人 阿部寛純
編集者 伊東堅純
印刷所 ルンビニ社
一部 二〇円

第十三回 全日本仏教徒会議

長野大会を終えて

長野大会は地元関係者の献身的な努力によって三千五百の参加者を算えて成功裡に円成した。

あらためて、大会のために終始老軀に鞭打って陣頭指揮をした半田会長。之を補佐した宿老各位や実動された事務局の各位、更には郡市仏教会長たる総務諸氏の御苦労



苦に対して深く敬意を表したい。

惟うに、大会のテーマは先ず団結、提

携、平和、の三つにしばられるが、いづれも容易ではないことがらばかりである。しかし勇気を以て之に取り組んで行かねばならない。よく全仏の弱体をせめる声がある時の大会にも挙げられるが、当局者としては激励の声として頂戴している。

仏教徒会議そのものも、全仏の

寄附行為に具体的に会議として定められたものでなく、一事業として採り上げられてきたが、回を重ねては盛上りは量質共に向上して来たが、その本質を理解される向きは少ない。



(写真) 第13回大会のもよう

今回の仏教徒会議で参加者や地元関係者の意見を総合して見ると

- 1、議題の数が多すぎる。
- 2、討論の時間が少ない。
- 3、老人が多く青少年が少ない

などの点であった。又開催地長野でも、開催迄の苦心は一切終了で、済まず更に発展的な話し合いが生れて、新しく仏教センター建設の気運がある如く過去の開催地には夫々、地域仏教会の再編成とか、提携の強化とか、仏教徒会議の発足などの好ましい産物が育っている事は、全仏の組織に益する力となっている。

全仏の加盟になる五十八宗派、府県仏教会三十三、仏教団体二十二の中で真に全一仏教運動の実践力と加盟団体の理解が得られなければ、いたずらに空転するきらいがある。全仏の弱体は依然変らな

いであろう。当面する種々の問題を速かに八万の寺院に報道出来るようになるには仏教徒会議も又、違った姿になると思われるが、月刊四頁の全仏通信さえも四千部、しかも末端迄届かずに、途中の中継処でストップしているようでは実効が望めないし、何とか対策を立てる事は言をまたないが之とても協力なしでは前進しないであろう。

団結の一事にしても種々なる障害があり、困難が伴うであろうが之を乗り越えてこそ強固な力となるのである。最後に内外の参加者、関係者の熱心な御協力に対し、深く御礼を申上げる次第である。

(組織局長 黒田白純)

大動員をはかる 第十四回大会準備委

力強く発足す

長野の興奮、いまださめざるに第十四回全日本仏教徒会議愛知大会の準備委員会がこの程発足した。

九月十六日、全仏黒田組織局長、阿部組織部長が西下して愛知県仏教会の第一回郡市仏教会長、区仏教会長の出席、種々なる要請をしたが、会議は盛り上りを見せて実施方を決定廿八日会長指名による準備委が発足した。

主なる事項を記せば先ず

- 一、期日 昭和四十一年六月二日、三日の二日間
- 一、会場 愛知県体育館、愛知学院、その他
- 一、懇親会々場 名古屋城、庭園
- 一、記念講演会場、県文化会館又は愛知学院講堂

一、参加者、県内、県外を含めて一万五千名以上二万名迄準備委員会会長

委員 長	竹田 鉄仙
副委員 長	伊藤 正範
総務	片岡 実道
庶務部長	石川 賢雄
財務部長	阪野 鉄城
渉外部部長	成田 芳髓
企画部長	成田 芳髓
組織部長	精園 俊介
広報部長	藤井 香嶺
事務局長	原 浩
委員	竹村 賢祐
	内藤 潮邦
	村瀬 賢祐
	次長 桑山春山
	次長 宇佐美諦練
	次長 安井溪洲
	次長 杉原真爾
	次長 渡辺守雄
	次長 村瀬 賢祐
	次長 大光明真雄
	次長 竹村 賢祐
	次長 藤井 香嶺
	次長 内藤 潮邦
	次長 成田 芳髓
	次長 成田 芳髓
	次長 精園 俊介
	次長 藤井 香嶺
	次長 原 浩
	次長 竹村 賢祐
	次長 内藤 潮邦
	次長 村瀬 賢祐
	次長 次長 桑山春山
	次長 宇佐美諦練
	次長 安井溪洲
	次長 杉原真爾
	次長 渡辺守雄

なお、本部を愛知県庁学事課内に置き、事務所を愛知学院内に置いて強力に実動を開始することとなった。

現代的不安に対処

第十三回 長野大会へ参千有余
明年は名古屋で開催

八月二十八、二十九日両日第十三回全日本仏教徒会議長野大会が長野市民会館で二日間わたる日程の幕をあげた。

中村文部大臣、大谷智子全日本仏教婦人連盟会長をお迎えして代表者三千五百名でりっすいの余地もない盛況ぶりだった。

午前八時の受付には早や半分以上の入りで開会九時には全国各地からは参じた僧俗代表者で一杯になり静岡大会に次ぐ記録を作った。九時には阿部全仏組織部長の司会により黒田組織局長が開会を宣言。次いで三掃依文のコーラスと共に法衆に入り、高階会長式辞と共に出発し、半田大会委員長兼挨拶、文部大臣、キーベトナム代表、西沢県知事、夏目市長の祝辞があり、次いで一昨年の大会で献身的努力により飛躍的な大会を催した松村静岡県仏会長以下五名と、十数年間農地報償のため努力をしてきた、鈴木神奈川県仏常務理事と三宅岡山県仏理事に全仏会長より感謝状の贈呈があり、終つて「天平のいらか」原作者の井上靖氏の記念講演で開会式を閉じ次いで総会に入り十八議案が各部会に配属された。その後アトラクションでは長野県自慢の諏訪太鼓が披露され一時から五部会にわかれ熱心に討議された。

今回の特色をあげてみると、(一) 公明党の進出やベトナム問題、その他仏教界共通の問題に對して一宗派、一県仏、一寺院での解決は至難であり、地元長野県内外の参加者が熱心に話し合いの機会をこの大会に求めたこと。(二) 従来大会は、お祭り騒ぎだとか、花火は打上げたが決議のしつぱなしとか、少しも全一仏教運動の方向に前進していないとか、かなりあちこちで手厳しい批判がありながらもかわらず、大会当日に十名、二十名の代表を出して、来年の全仏大会は「ぜひ私の県で開催するから頼む」と、一度に三県からも次期開催地要望があった事(三) 今迄で十三回目の大会であるが、中心テーマの如く全仏大会即大同団結。「遠い親戚より近い他人」即ち宗派の縦の線から県仏の横の線となり、やがて諸宗教との提携という方向が示され、全仏の歴史的使命となったこと。なお二日目の閉会式では次期開催地は愛知県仏と決定したが、中京地区での大会でもあり、元米仏法の盛んな土地柄で、仏教系の学校も多く、寺院数も少くないので今からその盛況が期待されるところ大である。

第一部会報告(組織、文化)

日時 八月二十八日午後一時四十分～五時
場所 善光寺大本願
議案 一号、二号、三号、九号、十一号、十二号、十三号の七議案
部会長 狩野獲麟、白山亮一、安藤寿雄
議長 望月竜学、戸谷隆成、塚田行勇、笠原正己、高坂空来、村木裕英、推谷 健、神野真一、木村正範、熊野竜夫、静守泰一、池の谷四郎、麻布照海、黒田白純、阿部頭瑞、古宇田亮文

第13回長野大会
部会報告

助言者 池の谷四郎
本 部 麻布照海、黒田白純、阿部頭瑞、古宇田亮文
参加者 五百名
第一号 世界平和祈願の日(仮名)設定の件

真言宗泉涌寺派 藤田俊教
「すべて平和運動と名づけられるものは首導権を左翼の人々に握られるので当然世界平和に邁進すべき仏教家が平和と云う言葉にすらタブーとして触れたがらない嫌いがある。」

よつて釈尊御生誕の八日を世界平和祈願の日と定め各寺院の梵鐘を毎月八日の定刻に打鳴し釈尊の教義を憶念し、世界平和を僧俗共に祈願したい。」と提案があった。これに対して質議に入り福島県

の竹田師より「こういう事に対しては国家的祈願としたいと思うが如何」と提案者に質問すると提案者は「私としては政治的含みをもたないで我々仏教徒がまず実践したい」と仏教徒の自覚を促した。また神奈川県仏鈴木師より「昨年これにやや似た提案があった(狩野獲麟師より)が、「全仏当局の意向を伺いたい」との質疑に対し当局黒田組織局長より「趣旨は誠に結構であるが、法的に一定はせ



しめることは困難なら、早速全仏さん下団体に対して実行方を要請したい。」と答弁があった。しかし「寺院に梵鐘がない人や、在家の人はどうすればいいのか」と神奈川県仏の峰師の質疑に対して提案者より「自分の寺に梵鐘がない人は釈尊御生誕の毎月八日に憶念すればよいと思う。まず我々一人でも二人でも実行しよう」と参加者に呼びかけ全仏共々実行しようとする

の結論で採択した。
創価学会対策の急務とその決め
第二号

手 仏教政治同盟 岡本 薫
これについては一昨年も同様大きな期待が寄せられたがその大要は、

「創価学会が公明党を結成して政界に進出したことは仏教盛衰の上に影響するところ少くない。この際我々仏教徒は一段と団結を強固にし、防ぎよより政撃へ大転し、破邪顕正のため戦うべきである。その決め手としては

- 1、各宗団は邪教撲滅のため厳然たる指令を発すること。
- 2、宗派を超えて国民運動にすべきである。
- 3、趣旨普及のため大衆向け週間誌を発行すべきである。
- 4、国会への請願運動。

その請願内容は
① 公共の福祉に反する
② 学会は反道徳、反法律の個所が数ヶ所ある(これを指適したがその内容は略す)

③ 調査の上禁止されたい」と主に宗団に対しての提案があったこの提案に対しては多数の質疑があり。

まず岡山県仏の広本師が口火を切り「向上向下門の立場から教義は邪でも非でも、困った時には救済しなければならぬ」
次いで埼玉県仏の稲岡師より「我々は創価学会対策にする、参議院選挙にせよ、仏教政治同盟にせよ仏教界の組織を通してもっと有効適切な実活動が望ましい」と全仏に要望があり。
当局より黒田組織局長が「全仏

は今回の参議院選挙で十八名推せて十二名当選された。今後全仏は創価学会対策については充分予質化し、善処する」との答弁があった。次いで梵人会鍛田さんから「今の話を聞いてみるとまったく歯がゆくてならない。なぜお寺さんは学会に対して傍観しているのか」と学会についてのケースを一つ一つ説明した。

次いで助言者として当局法律顧問門戸護士池の谷氏より「皆さん政治家は組織に対して弱いのですよ」と意味慎重なる発言があり、同じく同氏より「学会撲滅はたまたまにボカボカ殴りつけてはいけません、きめをこまかくして法律上の批判をしなければならぬ。例えばその一つにまず寺や宗派で離間関係を断つた宗制が規則があるか否か、すぐにお調べ下さい」と参加者に法律上での対策を説明し、次いで、有益な提案として岐阜県仏の前田師より「一年一日一円運動の提案があったが一日一円運動を拡大し、まず資金面を確保しよう。本当にやる気があれば資金は出来ると思う。今の全仏は対抗したくとも資金の面においてのみ行き悩んでいる。今回この会議をもって一人一円が五百円か千円を出し合って、それをもって全国の募金運動をやれば必ず出来る」と提案があったが日本山妙法寺の丸山師より全体的質疑の反論があったそれは「宗教家は政治面での学会対策ではなく、純粋な信仰の意味をもって対決するから撲滅は出来るので信仰面を撲滅したい。それにはまず全仏が積尊に帰れと宗派に呼びかけよ」と、いたずらな学会対決では危険であ

る旨の提案があり、一議案三十分の運営がこの議案に対して一時間もかからず議論がつくせきなくなり、参会者より、「岡本師の決め手は沢山あるが、どれを中心におくのか」と質問あり岡本師より「公共福祉を妨害するため国会に撲滅請願運動をすることである」との答えあり一人の異議もなく採択となった。

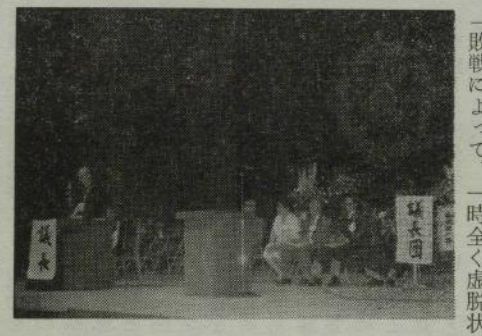
第三号
地域仏教会の組織拡充強化と全仏の時代即応の運営について

「現在の全仏は宗派にのみ重きをおき、地域仏教会は顧みられぬ有様で、特に大宗門だけが主として運営担当している。これ全く地域仏教会の弱体によるものがあることを痛感する次第である。個々の人が市町村単位仏教会を組織し、都道府県単位に全仏のさんとなつて大同団結をしてこれが中心となつて全仏が運営されるべきを提唱する。」
また地方ブロック会議の提唱(一年二、三回代議員制)と事務局常時設置を要望、これにより一大努力を傾注し、自主性の確立を実現することこそ新しい全仏である。

以上の提案に対して、全九州仏教会(西本願寺)の横山師から「私も全九仏として個人加入をしてくれるよう若い人に加入勧誘したが、なんの益もないといつて加入してくれない。それもその筈、考えてみると全仏は地域仏教会を組織しても組織のしっぱなし、例えば生れた子供に対しても親が乳を入れてくれぬのと同様である。私は全仏は血の通った組織づくりをすることを望む」と手厳しい全

仏の組織に対して反ばくがあり当局より黒田組織局長が全仏の年間予算を説明し、苦しい財政を、訴え、ハッキリと「全仏は皆予質以上努力をしているので認めて欲しい。地域仏教会も全仏ともども努力しよう」と人情味あふれた答弁に参会者もお互に協力し合うという形で採択となった。

第九号
大衆の期待に對するために寺院住職は如何に在るべきか



態にあった大衆が、漸く心の平靜をとり戻しつつある。
しかしながら国の内外にはまだまだ諸種の問題が山積して、物心両面の完全な安定は望めそうにもなく、宗教、特に仏教に期待するところのものが多大である。われわれ一人一人がこの期待に對へよう。」と提案し、梵人会鍛田さんより「現在の住職の個人の贅沢さはなんとのことか、また最近寺の自家用車族がふえたが、それなり

に教化にそそげばよいが、現在の自家用車族には不満である。学校教育は学校にまかせ、住職は宗教教育を寺で実践してほしい」と発言あり。大衆の期待に應える寺院住職とならうとの申合せで採択された。

第十一号
仏教徒は不殺生に由来し、生命の尊重大なる慈悲の精神に則り全国的清浄なる献血運動に理解を与える可協力しよう

現在各宗団に於てもそれぞれ協力はしているがなかならずキリスト教方面に於ても各教会の個々の運動はあつても全世界の宗教界の協力までには至っていない宗教界特に日本仏教界こそ進んで協力しよう。
と詳細な研究を発表し、栃木県仏の郷雲殿師が「全仏は広くPRせよ」の声あり黒田組織局長が「全仏通信その他によって広くPRする」との事で採択された。

ことこそ新しい人造りに必要不可欠なことと私は信ずるのである。よつて私は我が国学校教育に宗教教育を是非取り入れられることを切望し、あわせてこの声を高らかにして全国民の声とすべく努めるべきだ」と提案する。
この案に対して福島県仏の竹田師より「宗教教育を学校教育を取り入れても法律に差支えないのか」との質問に対して、助言者池の谷氏より「義務教育で宗教々育

を正面から教えてはまずいが、之を生かして教えるならば差支えない、仏教徒は釈尊の論説を研究し発表するだけなら宗教々育ではない、五蘊、心理学的、慈悲等、題目、念仏等じかに教えられないが坐禅等を黙想とか静座に生かしてれば差支えないと思うが微妙である」との適切な助言がありまた長野県相沢師より「最近道徳教育再編成の動きがあるがわれわれは正しい宗教観を之に含むよう努力しよう」との発言や神奈川県仏の某師は「仏教徒も戦争の協力者と思われ二十年間今いつて国をだましているのか、今こそ総力をあげて学校教育に宗教を取り入れよう」との発言があったが当局よりこの問題は仏教徒の人間像を研究中の全仏文化委員会に諮り善処することと採択となった。

第十三号
全仏の組織の強化と拡大を企り仏教徒を国会におくろう

今回の参議院選挙をかえりみたととき、仏法を基盤とした公明党はその信者の組織を極端に動員しほとんど立候補者全員の当選をみている。
これを別な観点からみれば信者の組織数から候補者を立てている。彼等は信者組織を政党に塗りかえてまで政治に熱心であり、きたるべき衆議員選挙に於ては三十数名を立候補させざるべく準備中であるとまで云われている。
全仏は組織を強化して正しい仏教を興隆することに信念と情熱をもって国会に多数議員をおくるこ

と、また地方ブロック会議の提唱(一年二、三回代議員制)と事務局常時設置を要望、これにより一大努力を傾注し、自主性の確立を実現することこそ新しい全仏である。

とが急務だと思ふ」と発言すると神奈川県仏教会の貝山師より「私はこの議案を全仏大会には毎年提案している、いや、これからも毎年提出するが、唯単に国会に議員を送ると云うばかりでは、やはり自民党の一人として活動するだけである。正しい仏教精神による政治結社の組織活動の実現を望む」とまた仏教同志クラブ摩尼師より「現在の不安政治は宗教なき政治である。そこでキリスト教的民主主義の政治と、創価学会による政治と我々真の仏教徒がこうありたいと思う政治との違いはどこにあるのか、そのようなイメージを与える運動でなければならぬ」その他、和宗の日山師、「青年層の活動がなければすべし無理である」と又仏教政治同盟の堤師より「自分も同感だからやっていた。学会は若さがある皆さんも仏教政治同盟に協力して欲しい」の発言があり採択となった。(記録者古宇田主事)

第二部会報告 (総務・国際)

とき 八月二十八日午後一時二十分〜五時七分
ところ 寛慶寺
集會者 第4号、5号、6号、7号、10号、18号
附託議案 第4号、5号、6号

議事

運営委員

- 沼田亮義、田崎一路
- 丸山公忍、小林庄司、後藤純一、飯島隆快、新美孝道、村瀬良彦、塚原徳広、美濃部薫一、川尻紀、
- 眞溪義貫、間野敬重、

議長

別所弘因
 当局 阿部局長、中山局長
 第4号

宗教情操教育と圧迫する行政指導に対処し、宗教法人立保育事業の法規上の明文化を促進しよう

仏協協

千田真隆

幼児に対する宗教情操教育は人間形成上最も重要なことであるが国家行政は必ずしも行きとどかず宗教法人では設立認可をしないとすることがある。ために我々は国会へ働きかけ、誓願書は国会を通過した。今後宗教法人経営の独自のものを實現しよう全仏当局へも強力に要望したいと説明し、大阪の水尾師より、保育事業の立法化より、僧侶としてやむにやまれぬ精神で行なうことが宗教者としての態度ではないかと意見をのべ結局提案者の要望に対する賛成を求め採択された。

第五号

老人福祉法の基本理念における仏教徒の自覚 (福岡県仏二十二鉄)

戦前は家長中心の家族制度も、戦後は夫婦中心のそれに転移した。老人は多年に亘り社会に功勞があったので敬老の精神を函養し老人の願いを社会があらゆる機会をとらえてアピールするよう願いたい。と説明し、摩尼清の師よりキリスト教に於ては人間関係の規定が出来ているが、個人主義的思想が強い。仏教の理想とする所は家族間の和合であり、この仏教思想が入れれば北欧における老人間の自殺問題も解消されるとアドバイスして当局もこれが提案の趣旨を確認し採択を得た。

第七号
 仏教徒大同団結の必須条件として全仏の性格を強化し運営方針を改善せよ

融通念仏宗

滝野弘澄

全仏は内外共に進展すべき義務がある。創価学会対策では仏教徒の惨敗である事を我々は卒直に認めるべきである。それに応ずるに我々は彼等の数倍の力と熱意を結集し①全仏は地方別、宗派別の代議員を選び、その決議と執行部の実践により運動をすすめられたい。その体質改善の一環としては①意識読誦聖典の制定、②強力な僧職組合の結成と恩給制度の確立、③僧職者に制服とバッヂの制定、④大口の金融機関の設置、⑤宗団、寺院経営のコンサルタント、伝道会社の設置等を要望したい、と説明。長野県仏代表より、現今の寺院僧侶は安易すぎる。一般人に仏法宣揚に一層の努力をされたい。長野県仏松井師より人間救済の仏法弘通のため僧侶の一段の努力精進を希望すると要望し、当局側も提案者の意見を尊重して充分努力してゆくことを申述べ採択。

第六号

全仏内に政治問題対策の専門委員会を設置しよう

ローマ法王の平和への努力は世界の各界リーダーに偉大なる示唆を示している。仏教徒はあらゆる界層の中で一番意図である。一九七〇年は安保改正の年にあたる重大な年にあたる。我々は一層安易な気持ちに任ざらず平和についての認識を深めねばならぬと説明。長野県仏山本師より、現在中国に一億

三千万人の仏教徒がいるが、隣国の中国にこそ充分な関心を持ってほしいと要望。近代仏研生師より特定の政治問題研究会を全仏に設けるべきではないと反論。結局当局より提案者の意とするところは決して左右に片寄った研究会を設けるのではなく各層の視野に立つた研究会で、各層の人々の持寄る自由討議の場を設けると云うことであると述べ、当局に要請すると云うことで結論を得た。

第十号

宗団活動を振興し強化するため財源を如何にして充実確保するか。その具体的方途如何

曹洞宗財務部長として同宗派の行なっている宗費以外の財源を得る方途として、均衡を得た負担方法について説明し、「都会寺院と農村寺院」の負担方法について詳細に述べ、全仏内に各宗団の財務担当部長会を設けて、曹洞宗側のこれを参考として各宗財政について討議して頂ければ幸いであると説明し、当局も非常に良いテストケースとして曹洞宗で成功をおさめているので、出来るだけその要望をいれたいと述べ、異議なく賛成された。

第十八号

われわれ仏教徒は世界の諸宗教と合同して、平和大会を開催しよう

長野県仏教会 半田孝海
 平和運動は戦後おこり、ピークに達しつつあるが、第一回原水爆禁止世界大会ではビュアな運動であったが、回を重ねる毎に政治的色彩が強くなって来た事は遺憾である。この宇宙時代に我々は、一

人井の中のカワズにとどまらず、世界の総べての宗教と提携し超政治的な平和大会を展開せねばならない。昨年この端緒となったものにデンマークの聖書協会との交流があった事は画期的で感激している。わが長野県仏ではすぐに出来なくともまづもって我々日本仏教徒がこの平和運動を展開せねばならないと云う決議をしている、と説明。これに対して日本山妙法寺近代仏研等から種々賛否両論が出たが、結局、長野県仏より、二つのイデオロギーの対立が当面の世界問題であるが、これを一つにするためには、積尊の人格尊重の人道主義を基調とした確固たる理念を以て、この平和大会を展開せねばならないと思うと要望があり、先般米國サンフランシスコにおける世界連邦世界大会に出席した、当局、中山国際局長より、大会の模様について詳細に説明され、近い将来、提案者の云うビュアな平和運動展開の道も開かれよう、と結論づけられ、大多数の参会者の賛成を得て採択された。

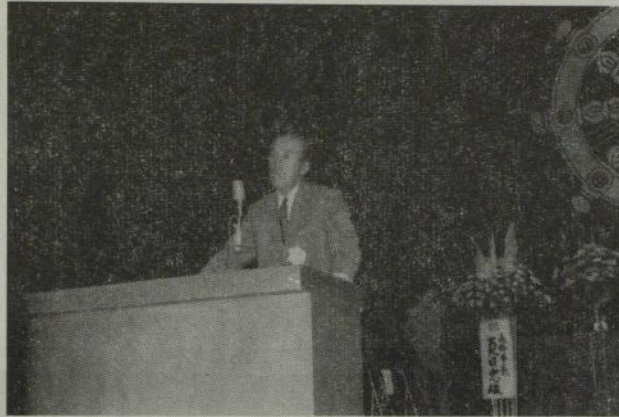
第三部会 (婦人)

終つて在日朝鮮人仏教徒連盟委員長、金星海師より挨拶があり、午後五時七分閉会となった。(記録者鎌田主事)

第三部会 (婦人)

午前中三千有余にのぼる参加者で冷防も氷柱も効果を疑われる程満員の中で、まこと仏都にあざわしい仏教徒大会が厳肅に盛大に開かれました。終了後午後一時からそのままの会場を頂いて、会衆も約半数一六〇〇人ばかりを受けついで、第三部会として仏婦大会の

幕は揚げられました。
副会長一条智光上人がお地元として特別な御招請もあったとか、会長大谷智子裏方がわざわざ京都から御来駕頂いたことも會員一同の深い感激となつて一層この会を盛り上げたとも申せましょう。勿論地元各位の献身的努力によることはいうまでもありませんが。



会長副会長お揃いで午前中の全仏大会から引続いて御臨席という此の部会が当然第一二回全日本仏教婦人大会に名実ともに切り換えられたことは申すまでもありません。かくて次の順序で会はずめられました。
司会 船口事務局長
一、開会のことは
全日仏婦関東代表 米山 久
一、主催者あいさつ

- 全日仏婦理事長 山本 杉
一、おことは
全日仏婦会長 大谷智子裏方
一、おことは
全日仏婦副会長 一条智光上人
一、議長選出
議長 山本 杉
副議長 米山 久
副議長 牧野 ます
助言者
全仏組織委員長 栗本 俊道
部会担当者 全仏国際部長 柳 了堅

- 部会記録 全仏総務部主事 福井 清俊
議事運営委員 地元 市川 つや
高野 イシ
地方 木全 かづ
白木 さく
西沢 はる
東京 船口 暉子
一、祝辞 高階全仏会長
岡野関東仏婦顧問
一、祝辞 内堀長野県会議員
栗本組織委員長

- 一、発表 活動状況並に計画 加盟団体代表
関西 友広(大阪) 白木(福井)
関東 木全(静岡) 海野(地元)
長野)
一、協議議題 //組織の強化拡充// 説明者 山本 杉

//寺院の集会を多くしましよ
う// 藤井 静子
一、閉会のことは
関西仏婦 楠瀬 寿々
正、副会長の御法話を拜聴出来た幸せを喜び、各代表の発表に刺激され、つづいて協議に入りましつた。組織の強化拡充の必要性はいつの時いつの場合もいわれることである。一番大切なことでありながら一層むづかしいこととされています。今年には個人加盟を認めましてしっかり地盤を固めようという希望でした。

又十余年の長い間朝まいりをつづけて来られた藤井姉からはこれをみんなが日常生活にとり入れてほしい。又若妻会やPTAの集りもなるべくお寺でする等、機会をつくっては仏教のお話を聞かせる様各寺院は必ず婦人会をつくってほしいと呼びかけられた。
最後に緊急提案として家庭へ学校へ青少年育成上げ最も大切な宗教教育を何等かの形でとり上げる様この仏婦大会の名に於て、本日わざわざ全仏大会の席上御自身祝辞を述べられた文部大臣に要請することを決議して午後四時半閉会した。

五時半からは席を婦人会館に移し懇親晩餐会が開かれ一条上人、友松円諦先生仏青各位の祝辞の後、會員有志の舞踊、詩吟、剣舞等で楽しくも和やかなふんい気の中で名残りを惜しみながら来年を約して西に東に帰路に着きました。
(記録者 船口暉子)

宣言
今や人類は自らの叔智によって、その存亡の運命を決し直らなければならない重大危機に直面している。現代世界の様相は主義主張の相違と、国家相互の不信から平和を叫びながら戦争をくり返してあり、科学の発達をして、ややもすれば絶滅の恐怖に陥れている。人類を吾々仏教徒は、この現実を立て、今こそ仏陀の眞精神を高くかかげ、平和の眞宗教と提携して、平和の達成と人類福祉の原動力たらんことを期するものである。らんことを期するものである。らんことを期するものである。らんことを期するものである。らんことを期するものである。

決議
一、現今の社会は著るしく人間性喪失の傾向にあるに鑑み、仏教精神の啓蒙をすすむに努め、その基礎たる家庭の信仰と、秩序ある社会の建設とに貢献することを期す。
二、現下の血で血を洗うベトナムの情勢は、極めて吾等の憂慮する所であるのみならず世界戦争の危機をはらむものとして看過し得ざるものである。依つて関係諸機関と世界世論に仏教徒の所信を披瀝し、速かに平和的解決を要望すると共に、戦禍にあえぐベトナム国民の救援に総力を結集する。
三、吾等仏教徒は正法のもとに團結し、いやしくも排他、独善、不和合の教団に対しては、強く反省を求むると共に、厳正なる批判をくだすものである。
昭和四十年八月廿九日
第十三回全日本仏教徒会議
長 野 大 会

第四部会報告(仏青)
日時 昭和四十年八月二十八日午後一時二十五分より五時十五分まで
場所 長野市民会館小ホール
議案 第八号、第十四号、第十五号
部会長 久保田精順、半田孝淳
助言者 黒柳祖道
中山理々、岩本昭典、石上慈敬、藤本幸邦
議事運営委員 西村輝成、角田宗道、山田一真、佐々木剛正、井上政紀、上野徳隆、朝比奈秀行
本部 近藤隆敬、小瀬川亮晃
参加者数 百五十名
議事 第十四号 ベトナムを救援しよう
長野県仏青 池田陸雄氏
第十三回全日本仏教徒会議青年部会は、眞の平和は仏陀の無我の精神にあることを確認し政治的主義、主張の対立抗争に反省を求め、当面、戦禍に苦しむ、ベトナム救援活動を展開しよう。
これに対し
1、今日の国際情勢下におけるこの不幸な動乱に対して救援との提案であるが、その是非論議は2、具体的如何なる方法をもつてなして行くか
決定
1、ベトナム戦関係各国に戦争中止のメッセージを送り
2、日本政府にも平和解決への努力を促す
3、戦争即時停止の全国民署名運動

第四部会報告(仏青)
日時 昭和四十年八月二十八日午後一時二十五分より五時十五分まで
場所 長野市民会館小ホール
議案 第八号、第十四号、第十五号
部会長 久保田精順、半田孝淳
助言者 黒柳祖道
中山理々、岩本昭典、石上慈敬、藤本幸邦
議事運営委員 西村輝成、角田宗道、山田一真、佐々木剛正、井上政紀、上野徳隆、朝比奈秀行
本部 近藤隆敬、小瀬川亮晃
参加者数 百五十名
議事 第十四号 ベトナムを救援しよう
長野県仏青 池田陸雄氏
第十三回全日本仏教徒会議青年部会は、眞の平和は仏陀の無我の精神にあることを確認し政治的主義、主張の対立抗争に反省を求め、当面、戦禍に苦しむ、ベトナム救援活動を展開しよう。
これに対し
1、今日の国際情勢下におけるこの不幸な動乱に対して救援との提案であるが、その是非論議は2、具体的如何なる方法をもつてなして行くか
決定
1、ベトナム戦関係各国に戦争中止のメッセージを送り
2、日本政府にも平和解決への努力を促す
3、戦争即時停止の全国民署名運動

動を進める
4、物心両面の協力をベトナム国民に送ることを全仏国際局に要望する

5、これが実施は全仏主催の仏教徒大会の一部会であり、おのずから仏青大会ではないのであるが、全日仏青が実施する
第八号
全仏に青少年局を設けよう
全日仏青 山田一真氏
第十五号
仏青統一協議機関を設置しよう
長野県仏青 寺沢智光氏

本二案についての提案者説明も何れも仏青活動を活発に推進するための対策として考えられた問題であるため、会の始め打合せを終り一括討議とする

即ち第十五号案は現在既に存在する、全日本仏教青年会の外に、更に新たな連合会を組織しようという意味ではなく、全日仏青の中にそのような協議機関を設けて、下部末端の組織をも円滑に動けるようにして欲しいとの要望から出たものでありますので、これは全日仏青の体質改善を図ることによって、満たしていくということになった。

第八号議案の全仏内に青少年局を設けようについては仏青と全仏との連携が欠けているうらみがあり、且又今青少年対策が重要な視点であるのに対して今日の全仏はこれらの点に留意が失われている。この仏青の要求に対して全仏側として回答あり、今日の全仏としては重大な提案であり寄附行為改正の点、且又予算範囲の制圧があり、大変なことと思う。と回答するも、本案に対しての処置経過

として、来年の当部会に全仏として如何なる努力をしたかを報告すべしとの付帯条件はこの決議がなされた。
最後に南ベトナム留学生、マンダム尼師の南ベトナム教授の提案に対する熱心なる討議について感謝の言葉を述べ、終了する。
(記録者小瀬川主事)



第五部会報告 (担信徒)

日時 午後一時～五時
場所 大勸進

第一議案 檀信徒組織を速かに拡充強化しよう
大北檀信徒会 伊藤半二

第二議案 檀信徒総代のあり方
部会長 笠原十兵衛、七条晃正
赤沼千尋、岩崎国松、

市村雨夫、三井周一郎
横田浄音、石川良考、
三戸部隆全、東幹雄、
鈴木晃明、江沢雄孝、
高田法英、斎藤房雄、
唐木高秀、南条三二郎

議 運
市村雨夫、三井周一郎
横田浄音、石川良考、
三戸部隆全、東幹雄、
鈴木晃明、江沢雄孝、
高田法英、斎藤房雄、
唐木高秀、南条三二郎

助言者 田中太郎、田中英一郎
友松円諦、前田義雄、
宮坂祐宗、福島清
本部 伊東堅純、森谷恵智子
鈴木美貴
参加者 九百名

第二議案は第一議案の前提となる構成単位であるので、第一議案に包括して討議いたし、次の結論に達し、満場一臨採択する事になった。

一、各都道府県仏教会当局は昨年度静岡大会以来、日を送って各地に仏教徒組織拡充要望の高まる状況に鑑み、既成檀信徒会の調査研究を進め、未設置地区結成の誘導を課題として推進する事を要請する。

二、本大会を契機として、長野県仏教会は全国のモデル地区の意味において、速やかに県檀信徒会の拡充に努力する。

三、全仏内に、速かに檀信徒会組織結成に関する調査・研究、指導機関を設けて、本日以降、全仏通信に檀信徒欄を特設し、将来全仏は檀信徒新聞を発行する等の事業を強力に推進する事を要請する。
(記録者長野県仏)

大会をかえりみて

大会実行委員長 半田孝海

▼昨冬いらい寸時も私の脳裏を離れなかった長野大会は、全日本仏教会および県下寺院諸大徳の絶大な御協力と御支援とにより、魔事無く円成し、八月二十八、二十九日の両日も幸い好天氣に恵まれ予期以上の成功を収めた事を本

当に有難く感じている。
去年十二月十六日長野市善光寺に於て長野県、市仏教会、善光寺事務局、長野県、市仏教婦人会の代表者は、全仏代表者とはじめて会合を持ち、第十三回全日本仏教徒会議長野大会を長野市で開催することを決定した。午後われわれ関係者は幾重か会合を開いたが、なかなか実動に踏み切れなかつた。



しかし、お互いの疎通ができてからは大勸進内に大会事務局を設け、長野市仏

教会の方々が主体となってドンドン事務が進捗したのである。捲土重来の勢とは、けだしこれを指したものである。一方地方自治体の変更により、郡市町村の併合が行われたさい、再編成がおくれている郡市仏教会もこの大会を契機として全部復帰したため、文字通り県下寺院オンパレードの催となった次第である。

最初は会場(長野市民会館の収容人員は二千四百名となっていた)の都合上、県外の参加者を五百名位とぎめていたのであるが、日を経るにつれて、予定数を上回ったことには以前になかったせうで、県内外をあわすと、優に三千名を突破し、うれしい悲鳴となったのである。

▼今や世は挙げ分極化時代と称せられる。しかも平和運動の一環たる原水爆禁止運動までが、その波に巻き込まれて不幸にも二つ三つに対立し分裂している。実に情け

ない話だ。そもそも平和運動に二つはない。従ってこれを解決する方策は、イデオロギーや政治に因りたくない始に反(か)えて出直して欲しいのである。われわれは第三次世界大戦の危機をほらむベトナムにおける戦争と、最近起ったインドとパキスタンの紛糾を顧み、これが原因の一つとして、カトリック教徒、イスラム教徒、仏教徒との異なった宗教間の不対立に根ざしている切実深刻な様相をみつめる時、何はさしおき、世界平和の問題に真剣に取り組まねばならぬことを痛感する。
かかる時点に当り、長野県仏教会はスローガンに掲げた如く「われわれ仏教徒は世界の諸宗教と大同団結して平和大会を開催する」ことを提案した。即ち世界の宗教徒は仏教徒であれ、その他の宗教徒にもせよ、あらゆる宗教の小異を捨て、相提携して永遠に宗教最終の目的たる戦争無用の楽土を顕現すべきことを強調したのである
全仏は昨夏六月に、仏書贈呈国際親善使節団の派遣を敢行し、全日本仏教徒代表が欧米各地をめぐると共に、世界の真の平和と人類の福祉に貢献せんことを誓い合ったというニュースは、宗教史上いまだ曾つてない画期的壮挙でありこれを聴くものをして奮起せしめにはおかれぬ。野球でいうなら確かにヒットを打ったものである。
また昨年十二月にはローマ法王より全日本仏教徒に対し、協力提携を強調した法王書簡を贈られた。これも諸宗教団結の画期的な事例であった。とにかく、今回の長野大会が、になら役割は頗る重

く、定めし参加者の皆さんより大きな期待を寄せられた所以もここにあったと推察する。と申してもわれわれはなんら具体的企画の用意がないため、残念に思われた方もあったようだが、全仏国際局中山理々局長は、すぐ私のおと助言者の立場に立ち「本提案はすでに戦後二回日本山妙法寺藤井日達老師の主唱で行われたこと、また六月下旬のサンフランシスコの世界連邦第十二回世界大会に世連日本仏教徒協議会から、宗教の相連に基づく紛争を防ぐ機関の設置を要請して採択され、世界連邦本部は九月下旬のニューヨークにおける理事会でわれわれ日本側の具体案をまとめようとしている。これが実現の暁には、世界の諸宗教協力の姿が世界連邦宗教委員会の形で強力にあらわれてくるものと思う」と前向きな姿勢を以て未来への展望を切り開いて頂き、欣快の情に堪えない。

▼われわれは大会が立派に盛況裡に運営されたことはめでたいには相違ないが、最も大切な事はむしろ済んだのちの反省と採択された案がどのように実行されて行くかにかかっている。およそ世間のいわゆる大会の中には、一時のお祭騒ぎに終る場合が少なくない。パット開いてソット散ってしまう花に等しいものである。こんどの長野大会も御多分に洩れず、このまま消えてなくなるのかと心配していた。ところが会務が一通り片が付くや、若手役員の有志は、せっかくこれまでに盛り上った情熱を豊かに実のらせてゆこうではないかという声があった。これ

に關する小委員会を開いて研究することになるだろう。
▼なお、仏婦および仏青の積極的な活躍は大会の雰囲気盛り上げるのに役立ち尼僧団の桑和な接遇は参会者には好感を持って迎えられたようだ。

長野大会をかえりみて

大会事務局長
丸山 宗 隆



今回の第十三回大会が、長野大会らしい特色を以て盛大に円成出来た事は、慶びに堪えないところでありませう。

今回の長野大会は、仏教徒の立場から世界の諸宗教との提携による平和への願

いととなり、疲弊と戦傷にあえいでいる戦乱のベトナム国民の救援という、国際的問題を討議された点創価学会、公明党の活動に反撥してか、檀信徒部会が非常に盛上った点、又県外参加者が非常に多かつた点は特色であったと思う。会場となった市民会館の収容人員は約二千五百名であり、県外参加者五百名、県内参加者二千名と云うことで、寺院、檀信徒、仏婦と割当をして、静岡大会のような大会場がありませんから、数では及びませんので、実のある大会にしようと考えました。然るに八月になりまして急に県外参加者が増え、ついに一千名を越えることになり、当局としても三千名を越える人員の収容に、うれしい悲鳴となりました。

全国から多数の仏教徒が集まるという事は、まづ大会の成功だと思ふのであります。これが仏教徒の団結となり、前進となるからであります。善光寺へ一度はお詣りしたいという気持ちもあります。又暑い八月の事でもありますので、信州へ行って見たいという気持ちも多少あったのではないと思われませんが、やはり仏教徒が大きな力を結集して、社会状況に対処して行かねばならぬ時期が来て、今度は長野大会に我々も参加しようという傾向になって来たのではないかと思われます。

我々が実際に直面している幾多の問題を、大会に出て聞いたり、研究してみようという気持ち、地域仏教会の力ではどうする事も出来ない問題を、全仏大会という力の結果によって達成しようとする気持ちが、強くあったのではないのでしょうか。

このように全国からの参加者の増加は喜ぶべき傾向であります。今後これが観光が目的であったり大会がお祭りさわぎに終らせたくないものであります。全国各都道府県の仏教会の組織が強化し、各都道府県に割当てて代表が結集されるような全日仏大会が開催されるようになりたいものです。

大会が宗派を越えて、地域仏教会の団結と組織の強化となり、仏教活動が一層活発となる事を心から期待しているものであります。

無事おえて

第十三回全日本仏教徒会議長野大会は、大成功に終わったと考え

る。さて今度の大会を長野で開催するまでには幾多の難関を突破したのである。即ち郡市仏教会長からなる理事会が推進力となつたことは云うまでもないことであつたが、善光寺一



山の協力を得られるかどうか問題であつた。昨年全日本仏教保育大会を開いた直後だけあつて容易に賛同して貰うことが出来なかつたが再三再四の懇請によつて全面的によりやく協賛して貰うことが



出来たのである。然し地元長野市仏教会の積極的な活動によらなければ最後の仕上げを全うすることが出来なかつたのである。去る六月上旬までは、常楽寺(会長自坊)に事務局を置き、中甸やつと大勧進へ事務局を開設して以来、長野市仏教会の活発な動きを展開したご承知の通り長野県は山間避地が多く、県内寺院及び檀信徒までに大会の趣旨を浸透させることは

並大抵ではなかつた。各郡市仏教会長はわらじばきで説得して廻つたことは見逃せない事実である。このために過勞で途中倒れた会長も居た。然しながら何んといつても長野市全寺院の結果がこの大会を大きく盛り上げてくれたことは疑いない。これには大会への協力費であるが大会間近には、始んど完納するといふ成果を見ることによつて私は大会を運営出来るという自信を得たのである。これも先年来、県内寺院名簿の作製をしたり、寺院共済組合を設立して県仏自体の活動が大いに役立つことを感ずる。

大勧進の事務局には、常勤の庶務主任を始め各事務職員が連日事務局に詰め万遺漏のないように事務整理に當つた。又全仏当局の暖かい思いやりから絶えず熱心なご指導によりスムーズに事務整理を行なうことが出来たものと思ふ。

ここに大会を成功させた一因として現役の文部大臣及びベトナム大使の大会への参加である。これは全日仏大会として始めてのことであり、この結果、地元県知事を始め市長及び県民を動員するのに大いに力があつたこと。又この間新聞社、放送機関との緊密な連絡をとりながら逐次宣伝を行ない大会を盛り上げることが出来たのである。もう一つは県外参加者が今迄にない千名を突破した事である。これは大会スローガンにもよるが仏教そのものが全一仏教の運動を展開して各宗派を超えて大同団結して新興宗教に対処していこうというあらわれでもあり、又平和を願う仏教徒の願いでもあつた。※

本部の日本移動を

WFB会長歓迎会

WFB(世界仏教徒連盟)会長
ブーン・ピスマイ・デイスクル
殿下(タイ国仏教協会副会長)と
アナム・サンガパン事務総長は、
九月一日夜九時羽田着の日航機で
台北から来日した。今日の来日は
九月五日から米國クレアモントに
おける世界宗教史学会議に出席す
るためのものである。

全仏では九月二日午前十一時に
東京銀座東急ホテルで同妃殿下を
囲んで歓迎会を開催した。席上
同妃は「日本がリーダシップをと
り、第八回世界仏教徒会議を東京
で開くよう努められたい。またW
FB本部を三年後に日本へ移動す
ることに同意された」と旨の注目
すべき発言をなした。

全仏の声明に返信

全仏では過般七月二十一日の全
国家務総長会同の決議に基づき、ベ
トナム問題の平和的解決を願ひ内
外に声明を発表したが、今般左の
仏教団体より、同声明要旨に賛同
する返信が寄せられた。

- 一、南ベトナム
- ①ベトナム大乘仏教会長

グエン・ヴァン・ヒュ氏
②南ベトナム仏教宣揚最高会
議長 釈心珠師

一、カンボジア 仏教本部
会長レイ・ロームス氏

一、セイロン
世界仏教徒連盟セイロンセ
ンター会長H・W・アマラ
スリヤ氏

元気に南米へ
高階会長ら出発

既報の南米ブラジルのリオデヂ
ヤネイロ市四百年祭に出席する日
本仏教徒代表全仏会長高階瑞仙禪
師、金剛秀一常務理事、長谷川管
長随員の三名は、九月二日午後十
時羽田発の日航機にてサンフラン
シスコ経由で一路現地へ向った。
高階会長は九十才とは思えぬ元
気な姿で見送りの全仏関係者、曹
洞宗要人に笑顔で力強く挨拶され
機上の人となった。帰国は九月下
旬の予定。

東京都仏教連合会理事會

東京都仏教連合会(会長来馬道
断師)では、さる九月八日午前十
一時より豊島区巢鴨の桃花源にお
いて理事會が盛大に行なわれた。
同會は本年春東京仏教団を東京
都仏教連合会と改称し、役員機構
も全面的に拡大強化し、理事も六
十余名に増員され実質的に仏教運
動の中核体として活動してに仏教
全仏加盟の府県仏教会の最右翼と
して全仏に協力している。

当日は各区の仏教会の代表が一
人の欠席もないという状態であっ
た。

なお同會は本年十二月成道會を
期して創立四十周年の記念式が行
なされるのでその実行案について
の審議をはじめ、宗教法人の事務
税務、政治問題等が討議され午後
二時散會した。

吉展ちゃんの冥福を祈って

第七回世界大会参加者が寄附金
去る昭和三十九年十一月印度の
サルナートで開かれた第七回世界
仏教徒會議に出席した代表團で構
成している「三六會」(ミロク會
代表宮崎文輝師)では、過般東京
南千住で誘拐の上殺された村越吉
展ちゃんの冥福を祈るため、遺体
の発見された円通寺内に建立され
る「吉展地蔵尊」建設資金の一部
として寄附することになった。

これは円通寺住職乙部融朗師が
同代表團員であったところから有
志が話し合つてまとめたものであ
る。なお寄附金は十一月初旬の地
蔵菩薩の縁日を期して発起人代表
が乙部師に手渡す。

加盟宗派役員交迭

聖観音宗浅草寺

執事	網野有俊
教化部長	木下亮孝
本堂部長	望月亮欽
庶務部長	五十嵐亮俊
會計	京戸慈海
土地	清水谷孝尚
勸財	峰岸喬晋
録事	

加盟県仏教会役員交迭

群馬県仏教連合会
会長 松浦亮一

国際平和観音鑽仰會が

香港へ観音像贈る

仏教による世界平和運動として
活躍している国際親善平和観音鑽
仰會(大塚道光理事長)では、七
月二八日南紀州那智山青岸渡寺に
おいて高木亮孝大僧正導師により
香港仏教僧伽連合会へ贈る第二十
二体目の聖観音像の開眼法要を営
んだ。

「仏教」(英文)

著者 駒沢大学教授
増永靈風博士

本書は著者が仏教を海外に
紹介するため、わかり易く英
文で解説したもので、海外仏
教徒に贈るには好適。
定価 一部三百五十円
(送別)

申込 全仏国際局へ
振替 東京三七六〇〇番

全仏へ

善光寺等が加盟

九月四日付にて、かねてより加
盟申請をしていた左の三団体が全
仏に加盟が承認された。

- 一、善光寺
- 一、三重県仏教会
- 一、岐阜県仏教連合会

※七頁よりつづく
かくして善光寺(阿弥陀如来)の
聖地でもって時局にふさわしい平
和問題を論議されたことは意義深
いものであった。
今後第十四回大会に望むことは
全日本仏教会の組織の強化をすす
めると共にその土地のカラーを打
出すことであり又議案の数をしほ
って真剣な討議が行なわれること
を望んで止まないものである。
(長野県仏役員 半田孝淳)

仏教書道 月刊

全仏通信の題字は知る人ぞ
知る天台宗大僧正豊道春海師
揮毫の書であるが、九月十一
日芝白金迎賓館で米寿祝賀會
が開られ、僧侶書家七百名
名の参加者があり盛大であつ
た。
その僧侶書家を中心となつ
て発行されている仏教書道は
仏教界唯一の月刊雑誌である
が現在六巻まで発行されてお
り毎月先哲名僧の墨蹟の紹介
があるが、今月号は法然上人
真蹟書翰を掲載している。法
然上人の真蹟は稀有のうち稀
有といわれたものをよく掲載
してあり、上人のいぶきに接
するようなののが汲みとされる
のは何とも有難いことである
人間喪失の世相の中に、せめ
て一時でも寂靜の心境にひた
り、人間形成の上在意義あら
しめるよう努力したいもので
ある。

定価 一ヶ月二百円(〒15円)

一ヶ年 二、二〇〇円
申込 港区芝三田南寺町十
仏教書道社

電話 (45) 9021



「量より質」的向上を企てる第十三回全仏大会は、さて幕を開けると、「全参加者三千五百名」と大会事務局が発表したように、「量的」にも、施設の収容力に関わらず、かなりの盛況裡に終始したことは洵に喜ばしいことであつた。前年度の静岡大会、長野大会と逐次量的にも質的にも上昇カーブの二途を辿っている事実をみては全一仏教運動も序々に各層への浸透が行われ周囲からの認識が新らたにされてきたように想われる。大会の運営面其の他に幾多の批判はあるにせよ、最早大会不要論や抹殺論は影を潜め、大会は全仏の組織強化の上から適切にして有効な仕事であると認められて来た証しである。しかし、徒らにこの現状を手ばすなどではなからう。かかる時機にこそ、全仏参加の各人が、大会のあり方に、運営の上に、厳密な分析と反省に基いて、明日の全仏の姿勢を匡し、大会の向上性を期さねばならぬのではなからうか。

大会は当初、各宗派寺院の結集の場としての意義より発展してその名の示す如く全日本仏教徒会議となり、僧俗一体とし仏教徒の全一的団結をはかる集いとなり、漸く参加態勢もその緒についたとの印象を深くするとき、吾等は、ここで全日本の仏教徒の明日の姿勢を示す大会の存在理由を強く再認識して、大会の検討の出発点としたい。

全仏大会を第一回より回顧してみるに、開催地・会場は初期全仏の性格的なものをそのまま反映して、各宗団の大本山級の寺院中心に行われ、第十回まで大方有力寺院を一巡してきた。従つて大会実行についても、宗派組織中心という自ら限定された範囲内で運営せざるを得ぬ傾向は拭き出来なかつたのである。大会のマンネリ化と全仏の事大主義の批判もこうした状態の中にあつて醸成されてきたのであり、大会不要論もこのような徴候から招来したものであつたろう。

長野大会を終えて

— 全仏大会運営上の検討と私案 —

組織専門副委員長 岩本昭典

を中核として組織するより地域仏教会を中核とすべきである」とする組織論は、籍口されてより久しいものがある。全仏の未来像として、地域性主体とする組織をもつことに對する反論もあろうが、全仏は単なる宗派連合ではないのである故、このウイジョンは次第に賛成者を増してゆくに違いない。そこで問題は地域仏教会の組織が脆弱ではこの未来像も単なる机上の空論でしかあり得なくなる。近時大会引受関係が本山格寺院より地域仏教会の手に移行されつつあり、大会の産物として当該地域の組織の拡大強化という大きな収穫を得ている。大会引受が本山寺

院を一先づ一巡して地域仏教会にその座を譲らんとしたとき、誰しも一種のリスクを感じたと思うこのリスクを克服したものは、時代の趨勢であり、仏教界を覆う危機感からくる全一的大同団結の要請が主因であつたように思う。ここで吾等は一つの示唆を受ける。即ち、「全仏の体質改善は大会のうち方から始らう。」ということである、云うまでもなく、組織はつくるものではなく、つくられてくるものでなければならぬのである。接触(親睦交歓)と浸透(教化)の過程によつて組織は成立してくる原理に立てば、大会のもつ

使命は重大である。吾等が想起反省せねばならぬのは、全仏大会が過去十三回を数え全仏の動きが、緩慢なる速度とはいふものの、序々に宗団から脱皮する方向を見、地域性を身につけてきた過程にあつて、大会運営の基本方式は依然旧体制である矛盾に飽着していることである。傍聞すれば、第十四回全仏大会は名古屋大会に決定し、愛知県仏引受けの発表をしたとのことである。名古屋とならば、本会場は恐らく金山体育館(収容力二万)あたりであろう。全ての中で記録的定期的大会となるだろうことは容易に想像される。参加二万名を動員す

る実力も愛知県仏引ればこそ可能であろうし、実績もあることだ。問題は二万名から参加者の運して、総会部会共に果して従前の運営方式による実行が、参加者の納得する大会として円成するや否やについては何人も保障の限りではあるまい。凡愚生が敢て厚顔を願みず、次のように大会運営に試案を提し、先輩諸先生方の御叱声を賜りたいとおもうものである。

一 私案

次期大会より運営方式に一大転換を試みて欲しいのである。これには、全仏の大会担当者も従前の大会記録、資料に慣例、方法を求めず、一応全て白紙状態から起案する覚悟が必要である。踏襲は易く創造は難いが、地元愛知県仏の提携協力により、全仏否全日本の仏教界の為に、新機軸を樹立する意欲をもち込んだ実行者の作意を念願してやまない。参加者が大会を終つて何か各人の胸中に充たされる何ものかを感ぜしめるような大会をもつて欲しいのだ。そこで、(大会実行を二日間に亘ると仮定し)

(一)、事大主義を排さねばならぬ、具体的には、本会場においては会談制を運営の本質とせず、大会的運営を企てるのは如何であるか。会議制は部会に全面的委員団の選出手続を簡略化するか、或はこの議事制度に代替しうる議事法を新たに適用させて、とかく形式主義に流れがちな総会より脱皮する方式は如何だろうか。所謂昨今各方面で試みられている米国の「ティーチ・イン」方式を基本的運営構想において考え、(1)、第一日(総会)の議題を全仏提案のみとする。(2)、議長一名、副議長二名とし全仏理事長常務理事中より選出。(3)、講師(助言)四、五名、全一運動のベテラン有識者を委嘱。(4)、代表質問者数名、地域仏教会代表にて構成する大会方式である。

(二)、部会運営に関しては、1.所要時間に五時間の枠を設ける。2.参加団体からの議案を配属するのであるが、議案審査会の権限を拡張集約した型で部会に附託して問題を集約した型で部会に附託する総花の内容を排し、三、五問題にしほつて討議した方がよからう。

3.名古屋大会の如き大参加者3名対象とする場合、五千名以上の部会参加者を見ることもあろうし発言も活発で集約不能に陥る危険もあるから、議運委の取り扱いに一考を要し代表質問制も併せて研究することが必要である。

(三)、第二日の総会閉会式開会式については、大概ね旧方式でも支障ないようおにもうし、特別な案もないが開会式に於て、文相の御出席は万難を排しても実現すべきである。若し代理ならば、祝辞を頂かなくともよからう。

(四)、従来大会引受側主催で行われる参加者の歓迎レセプションは参加者が増大するにつれて、経費と実行不可能になることがあるが、大会の親睦性からも、地元設置と運営の労を払っていただき、参加者の希望参加により各個に会費を拠出して貰い、その名も「参加者交歓パーティー」として是非実現して貰いたいと思う。観光の楽しみに倍加する喜びを感ずることになるだろう。

以上粗案で申し訳けないが、長野大会を終つて感ずるところを記したが、要は、今より空前を予想される名古屋大会に備えて、運営とのコペルニクスの転回をはかつて欲しいのである。綱を半年前に決めに切らば、大綱を半年前に決め啓蒙して欲しい。吾等は来るべき名古屋大会を刮目して相い待ちたい気持で一杯である。

戦乱の南ベトナム 仏教徒の願いに応えよう

東京佛青の山本君ら帰国す

サイゴン入港以来、ビエンホア・フンダオ・フエ市、ダナン市と廻り各地の仏教界実態、民衆の生活等具さに実地見聞して、七月二十四日我家に帰る様にしてサイゴンへ帰ってくると、私達に一通の招待状が待ちうけていた。化道院総書記、玄光上座の署名で、八月二日仏教界指導者により昼食会を催すことになり、ついては日本の仏教青年を招きたい、との旨が書かれて居た。

八月二日 十一時半トム・チャック師(仏教宣慰軍監督)の愛車にて化道院へ、ここはサイゴン市の西北のはずれチヨロンに通ずる道の右側に位置して居り、昨午政府から払い下げられたもので、六万坪有余の広大な敷地をしめて居る。現在は本堂、僧坊、会議所、病院(東西の医療設備を持ち、日に五百人の来患、無料診療)、講堂の五の仮の建物だけで、その敷地に比して寂莫とした感を与える。しかし向って右側には完成まもない五階建もあろうなか／＼モダンな病院を建設中である。

私達はトム師に案内されて会議所の一室に通された。そこにはもう、智光(僧総院長書記長)心珠(化道院々々長)智首(弘法部々々長)玄光、善化(化道院副院長)善明(青年部々々長)天恩(ヴァン・ホン大学教授)といった最高指導者の方々がそろって居られ、暖い歓迎の握手で迎えてくれた、それに三日間寄西のアメリカ・ウインズコロン州大学助教授清田実氏を加えて十一名で一卓を囲んで昼食をとることになった。



山本君ら帰国す

私達はこうした仏教界指導者が一堂に会するという好機に恵まれて、かねて戴いていた問題について質問をすることになった。

第一は、現在、日に一〇〇名の一〇〇〇名の人命が失われて行くが、人命尊重をたてまゝとする仏教として教会はどうお考えですか。

第二は、現実点に於いて、日本仏教会が貴仏教会になし得る最善の支援はどういう方法が好ましく思われますか。

野に於いての全日本仏教徒会議に於いて、ベトナム問題の平和的解決と支援が決議された。こうしたことは大慈・大悲の仏心を頂く仏教会の姿勢としては、むしろ自然のなりゆきではあるかもしれないが、全日本仏教徒大会の名に於いて、総意がこうした決議に至ったことはこの上ない喜びである。

一九五四年南北に分たれて以来越南問題は深刻の度を加え、一九六三年政権による仏教徒弾圧によって、宗教差別問題へと及び二重、三重の混乱をきたしていた。今まで潜在していたこれら一連の事件が各地で表面に出てくることにも、事件は国内問題から人道上の問題、世界政治の問題へと移行していった。日本でも各地で、この問題を真剣にとりくんでいく姿が見られ、幾多の支援も行なわれていった。しかしそれらはあるものは政論におち入り、あるものは有言事実化の姿をとらざるを得なかった。良き思いつきをし情熱をかたむけながら行なったこれらのことが、逆に世論を不信と無関心に落ち入らせていったことは、非常に残念に思います。今、私達は越南の実態に触れ、国民の声を聞いて、長野大会に於いて決議されたことが、今迄の力をあわせて、本當の力となって発揮されることを念じてやみません。

授を望んでいることは、イデオロギーの応援でも、反対でもない、超イデオロギー、超宗教の正しい精神的物質的支援であり、導きであります。

若年の私達には、あるいはこれらの問題を全く誤って受取っているかもしれない。しかし、私達はこの一つの実事を見、声を聞いたのである。願わくば、越南国民の悲願を、日本仏教徒の皆さん一人／＼の「仏心」が寄り集り、形づくられた「仏」を寄贈したいものであります。こうしたことが実現した時に、宗教が「仏」が現前するのであると深く信じて疑いません。合掌。(筆者は東京仏教青年会 山本雄毅、斎藤大智の両君で、二ヶ月に亘って南ベトナム各地を廻り、生々しい現地情勢を視察して来た。)

第一の問に対して 現在越南仏教会は人命尊重を反共親米につながるものではないの二つの大きな問題に当面しています。反共は武力によつてのみでは解決されません。武力が拡大されて行くことは当然、それに比して

解決出来る問題ではありません。今越南国民に一番必要なのは思想の混乱、精神の不安定を落着かせることが大切です。それには今私達は、化道院を新築致しますので、その御本尊に日本人の国民の皆様が暖い心が寄り集まって出来上った阿弥陀像を下されば何よりの支援と思えます。

記念撮影をして、私達は二時間後心良くこを辞した。

去る八月二十八、九の二日間長

火事がどういふ原因で起きたか、もうてがつけられないとか、遠くでもその火勢を追い払う叫びをあげて、これは一層逆効果となることを悟らなければなりません。今いたずらにアメリカゴイム、反共を叫ぶことはならないと思えます。越南国民が他国に支

連日の豪雨につづく、台風二十四号の襲来で、比叡山をはじめ各宗大本山、寺院は大きな災害をうけました。

中には不慮の死に襲われた方や負傷された方も多々あることと拝察されます。

ここに謹んで被災者の方々にお見舞申上げるとともに一日も早く復旧することを念じてやみません。

各宗派大本山
寺院住職各位
財団法人全日本仏教会

台風お見舞い

「昭和仏教徒覚書」に述べられている根本理念に立って、われわれはしからば、何をなすべきやの実践綱目を、ここにききつけて仏教徒——狭くは仏教信徒としての生活倫理をここに羅列しようと思ふ。

1、亡き人を敬う・誰でもいい見ず知らずの他人でもない。通りがかりに告別式でもあったら脱帽して一礼を送らう。それが生前、どんなことをしたひとでもいい。一人の人間のたつと生命とその生命の終滅に対して心からの人道的な同情と敬意とを表わそうではないか。

2、病人をいたわる・病人を慰め、老人をいたわるうではないか病める者を看護することは釈尊を礼拝するにまさる最大の福田と書いていっている。いつでもいいが何かの仏教行事の日に因んで慰問品を送り、ひまがあったら、親しくその病床を見舞いたいものだ。老人に對しても同様である。養老院なり、そうした施設を救済するのもし、近くに住んでいいる不幸な年寄に心をよせようではないか自然、車内の老人にあつたら進んで席をゆずらうではないか。

3、殺生をしない・無益な殺生は止めよう。殊更に生き物の生命を断つことを止めよう。これは、世の多くの母親や教員にお願いしたい。殺さなくてもいい無害の生物を殺してやろうではないか。何も犬や猫、鳥に限ったことではない。何でも「生あるもの」に慈悲の心をくばらうではないか。このことが、やがては「鴨猟」の禁止運動や、ひいては、死刑廃止運

動戦争反対の平和運動にまでひろがっていくと思ふ。

4、布施の心を持つ・少しでもいい、自分の手廻りの物を乏しい人々に与えよう。乞食がきても、大事にとりあつかってやろう。何か与えてやろう。与えるだけは、ちゃんと与えられるように、この世の中は成っていると信ずる。何も財物に限ったことはない。労力の奉仕でもいい。自分の能力を提供することもいい。何でも、自分の手にあるものを生かして隣人世間のお役に立てたいものである。

5、まず身辺から清浄に・車内や往來にごみをすてまい。自分の手近かなところだけでもきれいにしよう。自分の家のまわりだけでも清浄にして、自分も、他人も、気持ちのいいよう。にしようこれがひろがって段々と国土が浄化されてゆくにちがいない。従って、精神的にも、自分の職域だけでも清浄なものにしていこう。汚職や不正のない職場にしていこうではないか。自分の一隅を照らしさえすれば、やがて隣人にひびきを与えていくであらう。

6、静かに考える、一日一度でもいい、静かに考える時間、反省する時間をもとう。出来たら、必ず日記をつけて一日を反省、回顧しよう。

われら今何をなすべきや

昭和仏教徒の行動倫理

神田寺主管 友松 円 諭

いわれても、冷静に他人の言葉をかみしめ、とるべきはとり、きき流すべきは流そう。

8、酒におほれまい・酒はのむまい、のみすぎまい。自分の職業にさわりのあるほどのむまい。のまれることのないようにしよう。

9、うそはつくまい・時間はきつと守らう。他人に無駄な時間を待たせまい。他人にたのまれて、これを一旦ひきうけた以上は、必ずこれを実行しよう。他人の期待をうらぎることのないようにしよう。

10、迷信を排す・日に吉凶はないし、方角に善悪はない。だからこうした迷信に支配されずに、むしろ、迷信にくるしんでいる人々を正しくみちびこう。一日一日、少しでも正しい智慧の増長するよう努力しよう。かくして日本の文化水準を向上させていこう。

11、いい家庭を・いい家庭をつくって、いい父母として、せめてわが子女にわるい手本にならぬように努力しよう。幼少のものをみくびらず、軽んぜず、彼らの正しい生長に責任を感じ生き甲斐をもとう。

12、差別をせぬ・官尊民卑、男尊女卑の考え方をなおそう。他人を平等に尊敬し、万人成仏の道理を信じよう。従って他人の言葉にも中正な態度で耳をかそう。

13、食物に感謝する・食物をとるときに百性百苦のためものとうけとり、天下の馳走を感謝しよう

14、自分の仕事を楽しむ・三度の食事を通じて、天下世間につぐなたい。そのためには勤勞をさげすまず。「一日不作、一日不食」の考えで、自分の仕事にたのしみを找出そう。

15、恩を知る・うけた恩は忘れまい、かみしめよう。しかし、あたたか恩があつたら、これを恩にかけまい。つとめて忘れるようにしたいものである。仏教「知恩報恩」の「恩」の一字に帰すると、自分の今日生きていゝことを反省して、この自分をいま生かしている多くの原因、条件についていつもきびしい回顧と反省とをもとう。亡き親兄弟の法事をすることもこの報恩の精神からやりたいものである。

16、作善に務める・今日一日、何でもいい、一つでもいいから善いことをさせて貰いたい。「善いこと」だと気づいたらすぐに、これを実行しよう。「一日一善」「一日一行」を決心しよう。

17、聖句に親しむ・一日一度は何の経文でもいい、わかる釈尊の金句を口にそらんじよう。これを毎日くりかえして暗記するまでにならう。

18、今生きることの喜び、今日一日のたつと生命をどうか生き甲斐のあるものにした。やがて死すべきこの生命を、折角、生きていゝ間に、何かの役に立つようになりたい。

19、世間のために働く・自分の毎日の仕事、職業の中に、自分の生長 社会の進歩とを見出した。ただ収入のために働いているというさもない考え方からぬけきって毎日をもたしく、元氣よく生き生きとした生活にした。

20、心にともしびを持つ・従って、いつも自分の中に希望のともしびをともしびたい。理想の火をかかげたい。自分が毎日こころやって生きていゝことが、そのまま自分ばかりでなく、他人、隣人世間にも、少しでも役に立つものになりたと思う。

21、よい友となれ・善い友人とつきあいたい。自分よりも能力のある立派な人を友にもちたい。自分もまた、他人のために「善い友」となるように心がけよう。とりわけ、貧しい人、迷っている人の「善友」になりたい。なれるだけの力をもつものになりたい。

22、おのれの信ずる道を歩む・自分が正しいと信ずる道を自信をもって生活してゆきたい。どんな困難があつてもひるまぬつもりである。むしろ、自ら「重い石」をもつ覚悟でいきたい。必ず、やがて世間が理解してくる日がある。「世間は、つまりは、知っているのだ」と信じたい。

23、信教の自由・従って「信教の自由」については一歩もたじろぐことのないようにしたい。もちろん他人の信仰に對しては寛大でありたいし、自分の信仰についても狂言や盲信にならぬようにつねに、他人の批評に耳をかすようになりたい。しかし、一旦、自分がこの道を選んだ以上は、どんな圧迫があつても、困難があつてもたじろぐことがない。国家や暴力の

背景をもっておしつけられても、自分の信仰をゆがめることをしな

24、政治に強い批判を・社会、とくに、政治に対しては附和雷同せず、自分一個の正しい批判を

25、自分で判断する・ラジオ、新聞、その他の報道についても軽々しくこれを盲信することなく、

26、正見を持つ・昔風の天皇制の復活、逆コースに対しては常に

27、お互いに感謝・売るものばかりがお礼をいうべきでなく、買うものも売手に感謝する。お互いに

28、渡世の仏道・仏道修行というものは山林に隠棲することだけ

29、先ず他人を導く、自分ひとりでは仏道は進まぬ。生徒を教え

ることで教師は一人前になり、子を育てることによって一人前の母親が出来るように、先ず他人に仏教をひろめることが自分の信をか

「先度他」(先ずひとをみちびくこと)である。「自分が完成してから他人をみちびくか」などと考えていたら一生涯かかっても自分を生長させることは出来ない。こうやって、仕事をしている一歩がそのまま自他の生長に役立つ仏道修行であると思う。手近かなところで、先ず自分の子女を立派に育て上げることである。それが父として母として完成していく一歩なのである。



善光寺事務局長 若麻績正見

長野大会の意義

善光寺事務局長 若麻績正見

此度の大会開催にあたり、我々として一番心配した事は、炎暑の最中の事として果して全国各地より何年の如く多くの熱心なる仏教徒

の方々が集まられるかどうか、という事であった。十二回までの大会は炎暑と冬の時季をきけて、春秋の好季に開催されていたので、先づ参加の方々に、云はば一番悪い季節の開催がどんな影響を与えたか。関係者一同実心配したるか。この疑懼は美事にくつがへされた。いや、くつがへされたばかりでなく、県外参加が前例をみない一千人参加という最高数を示し、県内合せて参千五百人の熱烈なる仏教徒が、真夏の酷暑の中あの真剣なる討議がかわされた事は一体どういう事だったのだろうか。今静かに顧みて全く感無量なるものがある次第で、大成功裡に今大会が終つた、

県仏教徒が今後ベトナムへの義金大募集の運動を興さんとする決意をさせたのであるのだ。大会に参加された中村文部大臣と、ベトナム代理大使がくしくも同道で善光寺へ参拝された。私は御二人を案内して、初めに御二人の間の違和感が気になつて仕方がない。そこで「大臣、今日これからの各部会に於て今大会はベトナム問題を最も大きな議題としてとりあげる事になつてをりませう」と云つた所「あゝそうですか(代理大使にこの時初めて直視して)お国の苦しい現状については心から同情申しあげます」と発言され、中山先生が通訳されると、大使も初めて笑顔をみせ、深く深く頭を下げられたが、例へ一言であつても一國の大いなるこの言葉には、大いに気の安らぐものがあつた事だらうと思う。

荒木照定師 胃かいようのため東京順天堂病院に入院中のところ、九月二十日午前十時四十五分逝去された。七十三才。師は成田山新勝寺貫首として真言密教の秘法高揚と寺門興隆に尽瘁すると共に、千葉県仏教会長として県内郡市等の仏教会組織拡充に努められた。

あとがき △南ベトナム情勢は一日と深刻の様相を呈し、戦争の終結は望み薄である。然し我々日本仏教徒はベトナム仏教徒の救援に今後も努めねばならない。 △印度ベキスタンの紛争も一応停戦となつたが、十九世紀の無智から解放され一日も早く恒久平和が実現されんことを切望する。 △全仏も役員改選の時期。全一仏教運動の展開に熱のある士の活躍を大いに期待するものである。